

衆議院国土交通委員会ニュース

平成 28. 3. 30 第 190 回国会第 4 号

3 月 30 日（水）、第 4 回の委員会が開かれました。

1 理事の補欠選任

- ・理事の補欠選任を行いました。
理事 水戸将史君（民進）（理事野間健君去る 3 月 28 日委員辞任につきその補欠）
理事 津村啓介君（民進）（理事泉健太君今 30 日委員辞任につきその補欠）

2 国土交通行政の基本施策に関する件

- ・石井国土交通大臣、山本国土交通副大臣、若宮防衛副大臣及び政府参考人に質疑を行いました。

（質疑者及び主な質疑内容）

堀井 学君（自民）

- ・我が国では近年、高潮による被害が多発しているが、気象庁は高潮の発生状況をどのように把握しているのか。また、「気候変動における政府間パネル（IPCC）」は、今後、世界全体の平均海面水位についてどのように予測しているのか。
- ・3 月 26 日に開業した北海道新幹線への祝意及び期待される効果、また、長年開業に向けて携わってきた方々に対するねぎらいを大臣に伺いたい。
- ・JR 北海道の鉄道は、全て赤字であり、今後、減便や路線の廃止等について沿線自治体や地域住民との協議の難航が予想される。鉄道の維持か路線バス等の公共交通機関を導入するかの判断にあたり、JR 北海道に代わって国が判断すべきだと考えるが、見解を伺いたい。

中川 康洋君（公明）

- ・3 月 17 日の山陽自動車道八本松トンネル内の事故を受け、公明党は昨日、トンネル内の非常用設備設置基準の見直しや衝突被害軽減ブレーキ搭載車への税制特例を求める提言を大臣に提出したが、この提言も踏まえ今後の対応について大臣に伺いたい。また、昨日、軽井沢スキーバス対策検討委員会で中間整理が出されたが、これも踏まえ、再発防止に向けた大臣の決意を伺いたい。
- ・洪水対策として用いられているタイムラインについて、地震や津波、雪害対策にも応用できると考えるが、こういった分野への利用について、国土交通省はどのように考えるか。

荒井 聰君（民進）

- ・沖縄県の米軍普天間飛行場の辺野古移設問題に関して、裁判所から和解勧告案として「根本的」と「暫定的」の 2 つの案が示されたが、それぞれどのような内容か。また、現在の状況はどのようになっているか。
- ・気象庁は地震の予知について研究しているにもかかわらず、平成 7 年の阪神淡路大震災や平成 23 年の東日本大震災を予知できなかった。地震予知にどのくらいの予算をかけているのか。この分野でも、民間の力を育成、活用すべきではないか。
- ・第 8 期北海道総合開発計画（平成 28 年 3 月 29 日閣議決定）が策定されたが、具体性に欠けると考える。新たな計画の具体像、目玉は何か。

小宮山 泰子君（民進）

- ・昨年施行された水循環基本法及び同法に基づく水循環基本計画を通じた水循環政策の今後の取組について水循環担当大臣としての決意・見解を伺いたい。
- ・住宅の伝統的工法については、検討委員会の検証結果を実用的なものにして、次世代に受け継いでいく必要があると考えるが大臣の見解を伺いたい。
- ・伝統的な日本文化が失われつつあり、外国人に日本文化の提供ができなくなる危惧がある現状に対し、伝統文化・日本文化の振興についての大臣の認識を伺いたい。

本村 伸子君（共産）

- ・リニアのルートにウラン鉱床は存在しているのか。
- ・旧動力炉・核燃料開発事業団（現：原子力機構）が違う目的で過去に行ったボーリング調査の資料を持って、リ

ニアのルートから離れた場所で調査が行われたにもかかわらず、何故、ウランの鉱床を回避できている、安全にトンネルが掘れると言えるのか大臣の見解を伺いたい。

- ・ J R 東海の住民への用地交渉の仕方に対する疑念や山梨県で事業説明会を拒否している地区の存在など問題山積の状況でニアの工事を認可したことに対する大臣の見解を伺いたい。